



【重点目標】

神 楽 小

神楽小学校 学校通信

令和8年1月30日

第9号

主体的・協働的に学び、粘り強く心と体を鍛え、地域を愛する子どもの育成

昨年末に実施した三者（教員・児童・保護者）の学校アンケート結果や生活リズム調査、各種テスト（全国学力・学習状況調査や全国体力・運動能力調査等）の分析結果など学校の教育目標に沿って本校の教育活動の「成果と課題」を分析し、年度の「改善策」をまとめました。次年度も「日本一の神楽笑楽校（しょうがっこう）をめざし、教職員がチームとなって教育活動を進めて参りますので、保護者の皆様の一層のご理解とご協力をお願いいたします。

オレンジ：おおむね達成（４段階評価で２．５ポイント以上） ※昨年度は３段階評価

黄色：昨年度よりも０．３以上ポイントが下がったもの

評価項目 ※保護者向け	教員	児童	保護者
①学習の基礎・基本が身に付いている。	２．８↑	２．５→	２．２↓
②学校の授業が楽しいと思っている。	２．４→	２．６↓	２．３↓
③進んで家庭学習に取り組んでいる。	２．５↑	２．２→	１．９↓
④毎日同じような時刻に寝たり起きたりするなど生活リズムが整っている。		２．１↓	２．２↓
⑤外国語や外国の文化に興味がある。	２．７↑	１．９↓	１．９↓
⑥学校は、地域の方や施設などを活用した体験活動を行っている。	２．５→	２．７→	２．４↓
⑦集団生活を通して、人のために仕事をしたり、善悪の判断ができたりするなど、豊かな心が育っている。		２．７→	２．４↓
⑧時と場に応じたあいさつができる。	２．９↑	２．３↓	２．３→
⑨進んで仕事や手伝いができる。	２．９↑	２．３↓	１．８↓
⑩学校での出来事を家で話している。		２．４→	２．２↓
⑪学校で嫌な思いをしたとき、先生や友達、家の人に相談し解決することができている。	２．９↑	２．４↓	２．３→
⑫進んで体を動かすことに取り組んでいる。	２．５↑	２．２→	２．２↓
⑬自分の「良いところ」や「得意なこと」を将来に役立てたいと思っている。	２．７↑	２．５↓	１．９↓
⑭学校から出るお便り（通信など）に必ず目を通してしている。		２．７↑	２．７→
⑮情報通信ネットワークなどの情報手段を利用するときの約束事を守っている。	２．８↑	２．４↓	２．２→
⑯学校に楽しそうに通っている。（Ｒ７新設）	２．９	２．６	２．６

*昨年度と比較してポイントが上がった：↑ 変わらない：→ 下がった：↓

分析と改善策

【考える子：「基礎学力の確かな定着と向上」に関わって 評価項目①～⑥】

③家庭学習の進め方に困難を感じている児童・保護者が多いことが分かります。

→今後は、家庭での学習習慣が身に付くために、家庭学習（「宿題」ではなく、児童が自ら取り組む学習）の取組内容の具体例等をICT学習のお知らせや家庭学習の手引き、学級・学年通信、懇談資料等でお知らせする等、児童の学習意欲が高まる取組の充実に努めます。

⑤実技研修やALT・外国語サポーターの活用により教員の評価は向上しましたが、児童・保護者の評価が低く、学ぶ楽しさが児童の自発的な興味関心に繋がっていないことが分かります。

→今後は、児童が主体的に学ぶための授業の工夫やICTの利活用を進めるとともに、児童一人一人の「頑張り」をしっかりと見取り、伝える方法を工夫する等、指導方法の改善・充実に努めます。

⑥三者とも高い評価結果となっています。具体的には、世代間交流（1年）、まち探検（2・3年）、見本林見学（3年）、スケート学習（4年）、日本ハム出前授業（6年）、クリスタルパークでのマラソン大会（全学年）等、地域の方にご協力いただいた授業や地域の教育的施設の活用が児童の学びの充実に結びついていることが分かります。

→今後は、体験活動を通して、児童が成長した様子を各種通信等で積極的に発信する等、「学びの見える化」に努めます。また、体験活動の学びやマナーが神楽地区を愛する態度に繋がるよう事前指導・事後指導の一層の充実に努めます。

【助け合う子：「豊かな美しい心の育成」に関わって 評価項目⑦～⑪】

⑧⑨教員の評価が高い反面、児童・保護者の評価が昨年度より低くなっています。学校が育成を目指す児童の姿とご家庭が育成を願う児童の姿、児童が目標としている自身の姿に隔たりがあることが分かります。

→今後は、校内での挨拶、学級での係活動、委員会活動・清掃活動等、人のために役立とうとしている姿の賞賛方法等を工夫し、自己肯定感の向上に努めます。更に、学級懇談・保護者面談等を通して成長を願う児童の姿を交流したり、共通理解を深めたりする等ご家庭との一層の連携に努めます。

⑪昨年度に比べて児童の評価結果が下がりました。その要因として、解決に至っていない、誰にも相談できていない、自分の力で解決している等の状況が推測できます。

→今後はC・D評価が0になるよう、児童と教職員との信頼関係の育成や各種調査、教職員が児童の些細な変化や違和感に気付く力の向上に資する研修等を通して児童理解の強化に努めます。更に、児童の困り感や悩み等に関する情報共有を図るため、ご家庭との一層密な連絡・連携に努めます。また、これまでと同様に学校では、トラブル等の事案を把握した場合、直ちに聞き取り調査や児童間の話し合い等、事案解決に向けた指導を行っています。その後、事案の概要や指導の方向性についてご家庭にご連絡して参りますので改めてご理解とご協力をお願い申し上げます。

【じょうぶな子：「強い体と実践力の育成」に関わって 評価項目⑫】

⑫児童・保護者の評価が昨年度より低くなっていることが分かります。

→今後は、朝マラソンや体力アップチャレンジの取組及び賞賛方法を工夫する等、児童が意欲的に体力づくりが行える環境の充実に努めます。

【その他 評価項目⑬～⑯】

⑯学校生活の基盤となる「通学意欲」について三者とも高い評価結果となっています。

→今後は、C・D評価が0になるよう、教職員の指導力向上に係る研修や児童理解に係る打ち合わせ、授業・教室参観、児童と教職員のコミュニケーション機会の充実等、楽しく分かる授業や安心できる学年・学級づくりに努めます。